

旧東京聾啞学校跡地と東京聾啞学校野球部を中心に

渡辺徳浩

*1 日本聾史学会、*2 近畿聾史研究グループ

1. はじめに

東京聾啞学校野球部と東京聾啞学校跡地は、戦前後(1920年代から1950年代の中心)です。

2. 東京聾啞学校の跡地はどこにあったか？

東京市小石川区(現在、東京都文京区白山2丁目)にあった場所は、広大な東京大植物園(現在の東京大学院理学系研究科附属の小石川植物園)の南側の坂道の隣の辺りです。

敗戦する3ヶ月前に昭和20年5月24日空襲で学校の周辺の家が焼けて、その火焰と強風のため、講堂の屋根が発火し、全滅しました。戦後、この土地を売って、現在は東洋大学白山第2キャンパスとなっています。この坂道は、御殿坂という坂道は今も殆ど変わりません。しかし、残念ながら東京聾啞学校の面影は何も残っていませんでした。

3. 東京聾啞学校野球部の歴史

東京聾啞学校寄宿舎友の会野球部は、大正7年(1918年)7月7日、日本聾啞協会東京部会、東京野球大会を行ったと思われます。場所は東京聾啞学校グラウンド。胸文字はTOROAと見えます。

ろうあ野球歴史上、一番古い野球部であると思われます。写真-1

大正11年10月、日本聾啞協会東京部会野球大会にて試合を行った。

4. 大正時代のスポーツの背景は？

大正時代は、日本のプロ野球は読売巨人軍は昭和9年プロ野球史上初めて創立されています。しかし、それより前に、まだアマとプロの区別もなかったころ、大正9年(1920年)に日本運動協会と天勝野球団は存在しました。当時はプロ野球でなく、職業野球と呼ばれていました。職業野球に対して偏見する時代であった。大学チームや倶楽部と対戦したり何とかやりくりしていました。

各地の高等女学校も野球部を創設されました。

全国中等学校優勝野球大会(現在の全国高校

野球選手権大会)や東京六大学の興行圧倒するほどの人気があったという。早慶戦があまりの過熱で紛争続出のため中止されていた。

少年たちは野球するのが多かった。全国少年野球優勝大会(現在の全国少年軟式野球大会と当たる)を開催された。

米国の大学や大リーグ選抜チームが多く来日しており、試合を行われました。

5. 東京聾啞学校野球部を創部について

資料などは東京空襲のため、全部焼けてしまって確認できる資料が残っていないため、創部経過については不明です。私の推測ですが、東京聾啞学校から大学のグラウンドの方へ見えるので野球の練習を見て真似てやっただろうと思われる。

又は全国中等学校優勝野球大会や東京六大学野球から影響があったかもしれません。

6. 戦前の試合経過は？

・大正11年(1922年)10月15日～17日は東京聾啞倶楽部対抗優勝野球戦は東京聾啞学校校庭で行った。

殿坂倶楽部 11-6 東京楽善倶楽部

通学チーム 11-8 寄宿チーム

通学チーム 11-8 殿坂倶楽部 通学チーム優勝

・昭和15年(1940年)10月20日は東京聾啞学校校庭で行った。東京市立聾啞学校(現在の大塚ろう学校)同窓会が10-8で、東京聾啞学校を破っている。写真-2

・昭和17(1942年)年9月6日は関東聾啞野球大会が横浜第一中の校庭で行った。試合詳細は不明。写真-3

7. 戦後の試合経過

①ろう学校同窓会の主体

・昭和22年4月27日、連合同窓会対抗野球大会が、国府台の東京聾啞学校校庭で開催。

東京聾啞学校、柏(都立聾啞学校)、日本聾啞学校、品川の4チーム。柏チームが東聾を6-1で破り優

勝。

・昭和22年11月2日、第2回連合同窓会対抗野球大会が東京聾唖学校校庭で開催。出場チームも同数で、柏チームが連続優勝。

②地域ろうあ団体を主体

・昭和22年8月26日は関東地区聾唖野球大会は群馬県前橋市にて4都県が参加し、優勝は東京の東光倶楽部。写真-4

・昭和23年8月15日から16日は第1回関東聾唖軟式野球大会は千葉県市川市の東京聾唖学校校庭にて開催された。試合詳細は不明。写真-5

・昭和24年8月9日から10日は第2回関東聾唖軟式野球大会は水戸市聾学校校庭にて開催された。写真-6

柏葉4-3水戸

前橋10-3栃木

東光11-8柏葉

東光9-1前橋

・昭和30年7月17日から18日は第7回関東聾唖軟式野球大会は甲府グランドにて開催。東光が優勝。三浦浩氏が見える 写真-7

8. 安田一良氏について 写真-8

安田一良氏は、大正11年1月生まれ、89歳。

昭和15年中等部卒業。中学部3年の時、エースとなった。戦前、東京聾唖学校、市立聾唖学校、品川聾唖学校、日本聾話学校の4校が野球大会で東京聾唖学校が優勝した。戦後の昭和22年東京のチームと東光クラブのチームなどエースとして、東横聾唖軟式野球リーグ戦と関東軟式聾唖野球大会を活躍していました。当時のボールは、「トップボールB号」というゴム社製の準硬式ボールが使用されたという。

監督は、東京聾唖学校(現・筑波大学附属聾学校)校長萩原浅五郎氏。萩原氏は、野球が好きで上手かったという。

9. 井上亮一氏について 写真-9

井上亮一氏は、昭和6年生まれ、80歳。

元筑波大学附属聾学校同窓会会長(現・筑波大学附属聴覚特別支援学校)を務めていた。小学部の時、父と連れて早慶試合の観戦した。熱戦を見て感動となり、野球を始まる。戦後から全国ろうあ野球大会な

どは選手として活躍していました。学生時代から野球バカだと呼ばれていました。戦後から全国ろうあ野球大会等は捕手として活躍していた。主将を務めた。学生時代から野球バカだと呼ばれています。

卒業後、一級建築士として働いていた。特に耐震計画を専門。15年設計事務所で働く。その後独立、17年建設耐震設計事務所を自営した。その後筑波技術短大の建築工学科教授として赴任。

10. 他に有名なろうあ者

・大原省三は元野球部出身。昭和13年卒業。大原氏は、「手話の知恵」著作。ヘレン・ケラー教育賞と勲五等双光旭日章を受けた。

・中馬英一は元野球部出身。昭和13年卒業。東光クラブのチームとは戦後、在東京のろうあ者を中心し活躍していた。それとも東京聾唖協会の略称かもしれません。元東京教育大学附属聾学校同窓会会長(現・筑波大学附属聴覚特別支援学校)を務めていた。写真-10

両人は安田一良氏の2年先輩である。

11. 監督、コーチ

東京聾唖学校野球部監督は萩原浅五郎、同校野球部コーチは鎌田実は手話達人だったという。萩原は野球を上手かったという。

12. 持田徹

持田徹は、埼玉県立盲唖学校出身。戦後、初めて関東軟式聾唖野球大会など運営に尽力されました。

13. 東京聾唖学校野球部を解散

昭和18年(1943年)になると文部省は「戦時学徒体育訓練実施要項」を制定し、「敵性スポーツ」のひとつとして追放されました。中等野球も大学野球もこの年を限りに姿を消していました。

昭和18年秋には「秋季期、重大ナル時局ノタメ野球部解除」と記されている。ろうあ者の野球も競争のために中断となりました。

戦前のろうあ者の野球といえば、聾学校同窓会が中心だった。

14. 戦後の関東ろうあ野球復活

大東亜戦争終戦となり、アマ・プロなど野球試合を行われるようになった。ろうあ者野球の本格的に

は地域対抗が始まったのは昭和22年。この年4月27日、連合同窓会対抗野球大会が千葉縣市川市国府台の東京聾唖学校校庭で開催されました。草創期は、同窓会系チームを中心であった。

大きな転機となったのは、関東地区ろうあ団体連合会(現・関東ろう連盟)が設立された際、関東聾唖野球連盟が吸収されるとともに地域ろうあ協会所属チームが中心となった。同窓会系チームは姿を消したという。

＝参考＝

「ろうあ者野球50年」 平成3年11月 日本ろうあ体育協会

「聾唖年鑑」 昭和10年 聾唖月報社

「筑波大学附属聾学校同窓会百年史」 1997年9月 筑波大学附属聾学校同窓会

「東京都区分地図文京区」 2010年4版 昭文社

「日本プロ野球史」 1980年 毎日新聞社

証言や当時の写真に頂いた安田一良氏、井上亮一氏の方に、本当にお礼を申し上げます。

写真-1



写真-2



写真-3

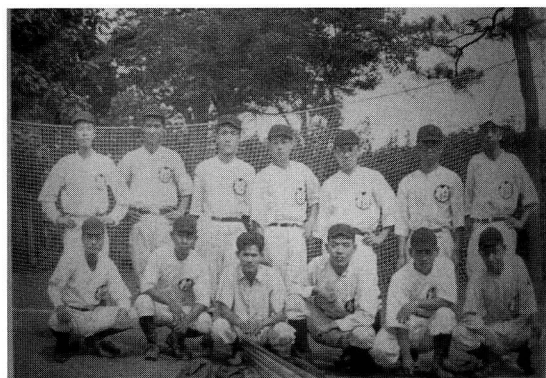


写真-4



写真-7

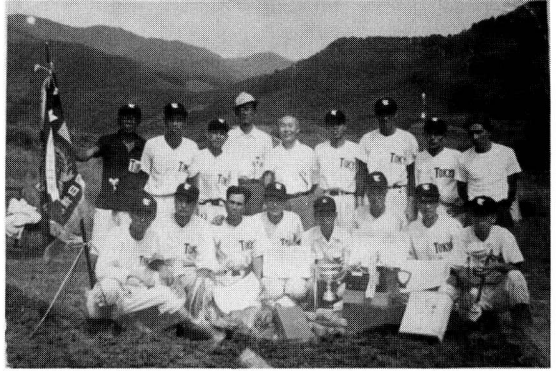


写真-5

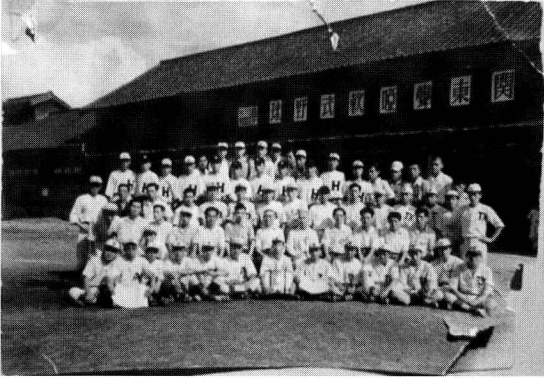


写真-8

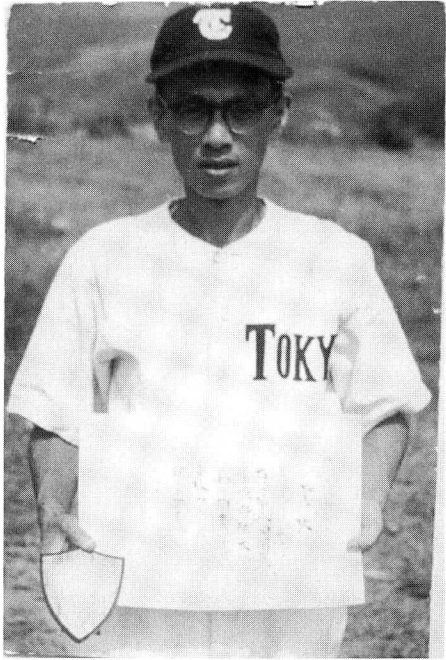


写真-6



写真-9

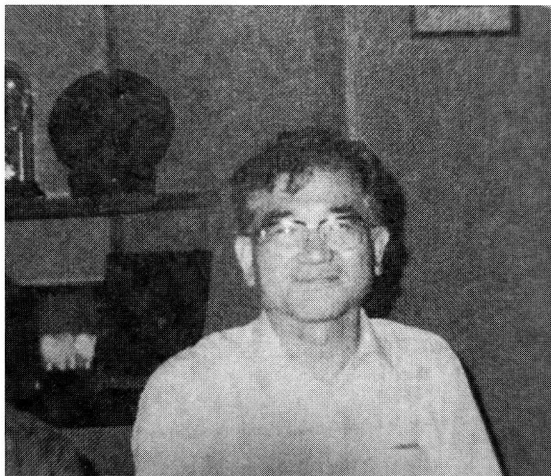


写真-10

